

# 金澤北ロータークラブ



写真：関一稔(会員)

■金沢 ■北郊 ■散策

## 卯辰神社

末広町

慶応三年、時の藩主前田慶寧（よしやす）公は英明の誉高く、文化事業に積極的に力を入れた。卯辰山開拓がその一端を示すものである。

その最初に鎮守の神として天満宮の造営を行った。祭神の天神は兼六園にあった「竹沢御殿」の主本尊を遷座したと伝わる。拝殿には十二代藩主斉広（なりなか）筆の「天満宮」の額が、内側には大聖寺藩主、前田利鸞（としか）筆の「卯辰神社」の額がかかる。

## 里山の維持

石川県夕日寺県民自然園園長 板坂三郎



「里山」と言うのは、広辞苑にもない、新語なんですね。山里は昔からあります。「里山」と言うと、金沢市街地から見れば森本の方から夕日寺から寺町からみんな続いている山手の山はみんな里山なんです。その「里山」と言う新しい言葉が出たということは、開発して住宅地にしたり、工場にしたり、あるいは埋め立て地にしたり、産業廃棄物や一般廃棄物の場所にするだけではなくて大事にしないで

はならない。そういう気持ちをこめて「里山」という新語ができています。里山が綺麗な空気を出し、遊びに行く場所になり、綺麗な水を出すそういう場所にいつでもしておきたい。そういう願望があって「里山」という言葉が出来ている。

里山の一番大きい木は「おくねぎ」とこの辺では言っていますが、「あべまき」昔は皆ひっくり返して「クヌギ」と言っていたんです。焚き木とか木炭にしたわけです。この辺の「あべまき」は、あれはみんな人が植えたものなんですね。「あべまき」という言葉は「あばた」の意味らしいです。岡山県地方の方言なんですね。どこかそちらの方からきたのかもしれませんが、それを持ってきたのはたいへん偉い人ではないかと思いますが、このおかげで金沢市街地の燃料が賄われていたわけです。昭和37・8年頃に燃料革命と言いますか、油に切り替わってそれから後はほったらかしになっているわけです。それ以前は、10年か15年ごとに適当な大きさになっているものを伐ったわけですが、現在はずっと伐らずに40年50年経っていますからね、真っ暗なんです。私は行ってすぐ気が付いたんですが、ほったらかしにしていたら大変な事になると思っています。その木の陰で太らないものや花が咲かないもの皆廃れていくんです。例えば明るくしてあげれば、「蕨」、「うど」、「落」、「栗」、「あけび」、「椿」、「桜」、「董」、「雪割草」等あの辺は多いですが、綺麗な楽しめる花がいっぱい出てきます。今はこういう里山は、そう言った楽しむものとか山の幸とかそういうものを受け取る場所にすべきではないかと思っています。焚き木はいらないわけですから。それから用材というのはもう海外からきているので、日本の物はいらないわけですから杉の木などは、ほったらかしになっています。これを使用しようとする、外材よりもよっぽど高くつくそうです。林業でなかなか商売にならない。ですから、むしろ山の幸・山の楽しみを出す場所として子供の来る場所にしてあげるほうがいい。子供たちが来てほっと息をつく場所とか、景色がいいとか、風が通るとか、不思議な物を見つけたとか、おかしな物を見つけたとか、感動を子供たちに起こさせる場所。そう言った場所にしてあげたほうがよい。将来自然の中の文学を志したり、芸術一般・科学に興味を持つ子供が出来てくるそういう場所にしてあげたいと思います。

(文責 榎並 誠)

## 私 の 名 刺

大 垣 悟



“大垣でございます”。入会させて戴き、有難うございます。このたび木下和吉様並びに上田忠信様のご推薦と会員皆さまのご承諾を戴き、金沢北ロータリークラブの一員に加えて戴きまして、御礼申し上げます。山上会長はじめ諸先輩の皆様から受け賜りました「ロータリー精神、クラブ規約を理解し、実践していきたいと思っております。私は松任市で生れ結婚にて金沢で生活しております。学生時代は京都市で生活をし、社会人としてのスタートは住宅産業で一工場生産住宅（プレハブ）—最初は総務が出発で、一年後にトップより営業を経験して欲しいとの事で、正直申して、苦手な分野でもありましたが、“人さまがしておる事に自分に出来ない事は無い”との気持ちで…、でも甘くは無く、何度となくイヤーになった事でしょう。でも負けたくない。そして多くの人との出会い、多くの事を教えられ、又助言もいただき、その結果、全国ナンバー1の実績の栄にもなった事を懐しい思い出としております。現在の仕事は（株）大垣技術士事務所の一員として、建築設備設計（電気、給排水衛生、冷暖房換気）監理の業務を行っております。官公庁の仕事が主であります。特に最近の建築に於いては、省エネルギー、環境問題、建築コスト、施設メンテナンスと多岐にわたっての問題が増えて来ている状況です。建築工事期間は1年ないし2年間で終わりますが、運用期間は30年以上と続く訳ですが、設備にはランニングコストとメンテナンスが付いてきます。メンテナンスは最近特に利用される人々の健康管理をも含めた重要度が増してきております。又、都市景観をも含めた防災都市としての街づくりの一人として社会貢献すべく、日々新たに技術革新に努力したいと思っております。新しく創るだけでなく今後、社会問題として建築物の産業廃棄物が懸念されます。“ものづくり”には多くの人々との出会いと、コミュニケーションを通じて、皆々の温かい心に接する事の大切さをいつまでも育ててゆきたいと思っております。

会員皆さまの御指導、御鞭撻を、お願い申し上げます。

